

京セラ株式会社

2016年3月期 第3四半期 決算カンファレンスコールでの主な質疑応答内容

(2016年1月29日実施)

【経営全般】

Q:100%子会社の再編を発表しているが、利益改善に即効性があるものには見えないが。

A:子会社3社の事業(全てまたは一部)を京セラに吸収する。事業規模や保有資金面で将来への投資が限られていた子会社の事業を京セラに引き入れることで、事業面でのシナジーに加えて経営の機動性を高めていきたい。来期すぐに効果は出ないが、数年で変化してくると思う。

Q:来期の回復力という点についても、事業環境が回復しない限りV字回復は難しいのではないか。

A:これまで各セグメント、事業本部や子会社に任せていたことを京セラ主導で引っ張っていかうとしている。組織も変えている。

【半導体部品関連事業】

Q:スマートフォンの生産調整の影響により前回予想に比べて売上を105億円下方修正したとのことだが、主因はセラミックパッケージか。第3四半期から調整が始まっていると思うが、実態としてはいつから調整が始まり、また、終了時期はいつ頃か。

A:セラミックパッケージについては価格が下がってきている。特に電子部品用表面実装セラミックパッケージは数量が大きく増えないなかで価格が下がっているという傾向があり、売上も伸ばせず、利益面でも厳しい状況にある。色々な報道にあるように、大手スマートフォンメーカーの調整が昨年秋口から言われており、電子部品用表面実装セラミックパッケージではないが当社のシェアがきわめて高い製品にもこの影響が出ている。世間で行われているようにセットメーカーの回復は春先から出てくると思うが、部品メーカーはもう少し先だろう。

【ソーラーエネルギー事業】

Q:ソーラーエネルギー事業の状況は。

A:ソーラーエネルギー事業の9ヵ月累計の売上は前年同期比で10%強減少しているが、採算の改善は進んでいる。

【通信機器関連事業】

Q：第4四半期の売上は第3四半期比で微増の計画。一方、事業利益は第3四半期の10億円台の黒字から、第4四半期は38億円の赤字となる。減益の要因は販促費の増加か、それとも構造改革費用等を含めているのか。

A：第4四半期にかけて販促費が増加する。また、今期中にある程度の在庫を処理する必要がある。これらの費用を見込んでいるため、利益は減少する。

Q：通信機器関連事業の施策は。

A：現在、施策を検討中。収益を上げるための施策を取っていきたい。これまでのように数量拡大にこだわらず、利益を確保できる製品に取組むという方針を持っている。そのために、国内外問わず適切な規模に生産拠点を集約する等の策を考えていかないといけない。

以上